

## 2017年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/欧州泌尿器科学会 (EAU) 交流プログラム

### 2017 JUA/EAU Resident Programme 参加報告

木村 信吾 (岩手県立磐井病院)

ロンドンで開催されたEAU17に交流プログラムとして参加させていただきました。

せっかく参加するのだからと思い演題も提出しましたが残念ながら不採択となってしまう、audience (と観光)に徹した参加となりました。

初日にはJUA/EAU joint sessionがあり、日本と欧州の先生方がCRPC/腎癌/低活動膀胱についてパネルディスカッション形式で積極的な議論が交わされました。初日にも関わらず、日本人以外の先生も多く参加されていました。

2日目の夜はResident Dinnerにご招待いただきました。高尚な場所に呼ばれたのだと思ってドキドキしながら参加したのですが、ナイトクラブの1フロアを貸し切った会場でした。僕は他の日本人レジデントの先生より早く現地に到着してしまいましたが、次々と欧州各国レジデントたちに話しかけていただき、楽しい時間をすごすことができました。EAUに参加しているというselection biasかもしれませんが、だいたいのレジデントもhigh volume centreで手術をたくさん経験されているようでした。逆に外来やIC、治療方針決定などはあまり任されていないという印象でした。

欧州では化学療法だけでなくホルモン治療なども腫瘍内科医に手放す傾向にあり、日本はまだ泌尿器科医がやっているならば絶対に手放すな!といった話題もありました。

演題についてもCRPCや化学療法の話題はあまり多くなく、全般的に手術に重きをおいた内容が多く取り上げられていたように思います。

期間中にResident programmeに参加された他2名の先生とも交流ができ、モチベーションが高くとてもいい刺激となりました。

また滞在中に、ロンドンで働いている友人に車を出してもらい、ケンブリッジ大学に小旅行に行ってきました。ロンドン郊外の広大な牧草地を1時間程走るとケンブリッジに到着しました。ケンブリッジ自体は人口12万人の小さな町ですが、大学病院や近代的な建物は郊外にあります。町の中心部には中世から続く大学の建物が無数にあります。豊かな自然の中で歴史の1ページに名を刻みながら、今も研究者たちはここで世界トップの仕事をしているのだなと思うと非常に羨ましく思いました。



Image 1. 学会会場



Image 2. ケンブリッジ大学キングズ・カレッジ

今回のEAUは5,000以上のsubmissionに対し、1,262の演題が発表されました。厳しい採択率のEAUですが日本人の先生方も多くご発表されており次は自分も発表すると心に決めて帰国の途につきました。

このような貴重な経験をさせていただいた日本泌尿器科学会、EAUの関係者の皆様に関心より感謝申し上げます。この経験によって今後の診療・研究やJUAの発展に貢献できるよう努力して参ります。